自動組版のご案内

大量の物件情報を取り扱う情報誌や商品カタログをはじめ、
英会話集や学習参考書などでも実績のある明昌堂の自動組版システム。
ヒューマンエラーのない高精度な組版が短納期で実現します。

■幅広いジャンルの書籍に有効

「定形のレイアウト」「大量の情報」といった条件が揃っていれば、書籍のジャンルにかかわらず自動組版を行うことでコスト面やスピード面にメリットを見いだすことができます。例えば、物件情報などを大量に紹介する書籍や、会話集など、ある程度固定された内容の書籍がこれに当てはまります。

大量の情報を一括して処理するため、情報量が多くなればなるほど、その効果は多大なものとなります。

■双方向リンク機能

明昌堂の自動組版システムでは、双方向リンクが可能です。双方向リンクとは、組版後のInDesignデータを、元のテキストデータに書き戻す機能です。これを使うことで、自動組版後にInDesignデータ上で修正を加えた箇所を元のテキストデータに反映させることが可能です。書籍の校了時に、それと同一内容のExcelデータを提供させていただきます。

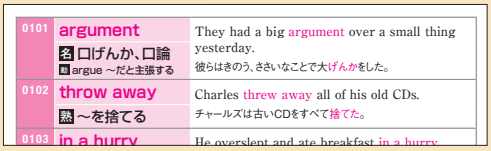
毎年改訂版を発行するような書籍ならば、次年度以降もそのデータを修正しながら繰り返し使用することが可能です。

■自動組版用の入稿テキスト

どんなに定形なレイアウトであっても、入稿テキストの状態によっては自動組版が不可能な場合があります。自動組版に適した入稿テキストとは、物件毎に一行に整理されたデータです。

図①は自動組版に最も相性のよいテキストの例です。Excelデータでひとつの物件情報が一行に整理されています。図②のようなテキストデータの場合は、自動組版を行う前にテキストを整理する作業が発生します。また、このようなテキストでは、「《店名》」のような目印が存在しなければ自動組版ができません。

自動組版使用例

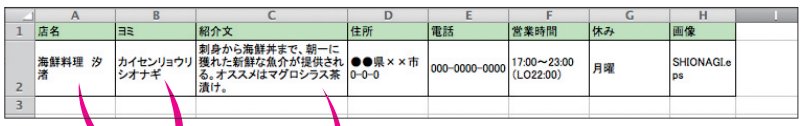


英会話集

商品カタログ

店舗ガイド

図①



	A	B	C	D	E	F	G	H
1	店名	ヨミ	紹介文	住所	電話	営業時間	休み	画像
2	海鮮料理　汐渚	カイセンリョウリシオナギ	刺身から海鮮丼まで、朝一に獲れた新鮮な魚介が提供される。オススメはマグロシラス茶漬け。	●●県××市0-0-0	000-0000-0000	17:00～23:00(LO22:00)	月曜	SHIONAGI.eps
3								

⬆項目単位でセルを区切り、横一行に1物件の内容を入れたExcelのデータです。この状態のテキストであれば、自動組版を行う前にテキスト処理の手間がかかりません。

⬆エクセルの各セル内の内容をどこに流し込むかを事前に設定しておきます。さらに自動で流し込んだ際の、文字のリフロー処理等も設定することが可能です。

⬆画像の縦長・横長によってレイアウトを自動で選択。デザインパターンが多いものでも対応できます。

図②

《店名》¶
炭火焼き肉　くにを¶
《ヨミ》¶
スミビヤキニククニヲ¶
《紹介文》¶
国産霜降り牛をメインに、様々な部位の肉を提供いたします。希少部位などは数量限定です。¶
《データ》¶
●●県××市0-0-0¶
000-0000-0000¶
17:00～23:00（LO22:00）¶
月曜¶
《画像》¶
SHIONAGI.eps

⬅項目毎に改行したテキスト形式のデータ。ここから横一行の表形式に変更する必要があるため、量が多い場合は手間がかかることになります。

■自動組版のメリット

当社では、商品ごとにお客様のご要望に合わせてカスタマイズされた、非常にシンプルな自動組版のシステム設計を行っています。そのため短期間で導入することができ、また初期費用を非常に安く抑えることができます。紙面のフォーマットデザインも当社で行いますので、初めにお客様にご用意いただくものは基本的にはテキストデータのみです。

また、自動組版用に作られた大量のテキスト情報は、そのままデータベースとして使用できます。データを一元管理することができれば、複数の書籍、またはウェブサイト等の他メディアへ、効率的に情報を展開させることが可能です。

自動組版の導入の際には、必ず事前にお打ち合わせを行います。入稿後のトラブルを防ぎ全体の工期を短縮するため、入稿から納品までのワークフロー、入稿テキストの最適な作成方法、イレギュラー時のルール設定などをご提案させていただきます。

まずは、「こんな書籍を自動組版で作れないか」といったご質問からで構いませんので、お気軽に当社担当営業までお尋ねください。

明昌堂自動組版システムに関するQ&A

Q1
Accessなど、Excel以外のアプリケーションでの入稿は可能でしょうか？

A1
Accessのデータを直接取り込むことはできませんが、データ形式を変換することで取り込むことができます。その場合は、当社にて変換作業をさせていただきます。自動組版で扱うことができるのは、タブおよびカンマ区切りのテキスト形式となりますので、この形式に書き出すことができれば作成元のアプリケーションは問いません。

Q2
すでに入稿テキストが出来上がっています。自動組版に適していない状態ですが、明昌堂では自動化は可能でしょうか？

A2
自動組版に適していないテキストデータの場合、まずはそのテキストが、データベースソフトを使って処理できるかどうかを検証させていただきます。多くの場合、自動組版が可能な商品はテキストもある程度法則性があるため、処理をすることで使用可能となります。以前Excelデータでも、1行ではなく組み上がりをイメージした形で支給いただいたことがありました。このような場合、原稿として非常に見やすいですが、自動組版ができない場合がありますのでご注意下さい。

Q3
物件ごとに文章量にばらつきがあるので自動組版には向きませんか?

A3
テキスト全体を表示させるために自動的に長体をかけることもできますし、文章量によって文字ボックスのサイズを自動的に変動させることもできます。複数のデータを繋げて一つのスペースのなかになりゆきで配置することも可能です。そのため、ある程度のテキスト量のばらつきがあっても自動組版を行うことが可能です。

Q4
双方向リンク機能ですが、校正途中でExcelデータを修正して再入稿することは可能でしょうか？

A4
文字レベルの修正であれば対応可能です。その場合は、当社にて一度Excelに書き戻したデータをお渡しいたします。ただし、物件の追加･挿入、項目内容の削除がある場合は、再度自動組版が必要となります。

Q5
校正途中でレイアウト・デザインを修正することは可能でしょうか？

A5
自動組版を行うような商品は、定形のデザインが大量に続く場合がほとんどです。一度自動組版されたもののデザインに修正を施す場合は､再度自動組版を行うことになります。そのため、初校から再提出させていただくことになります。ただし、書体変更や、カセットの入れ替え程度であれば途中の修正は可能です。自動組版のメリットを十分活かすためにも、完成されたデザインデータと完成度の高いテキスト原稿の入稿をお勧めいたします。

Q6
画像データなどテキスト以外の情報を書き戻すことはできますか？

A6
基本的に書き戻されるのは文字情報だけですが、画像の場合はファイル名・貼り込んだトリミング情報を抽出することができます。次回、書き戻し前と同じ画像を、同じトリミングで貼り込むことができます。
そのほか、太字やルビの情報も書き戻しのデータに入れることが可能です。